

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4490100064
法人名	医療法人 泰山会
事業所名	グループホームみよしファミリー園
訪問調査日	平成21年1月8日
評価確定日	平成21年3月30日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4490100064
法人名	医療法人 泰山会
事業所名	グループホームみよしファミリー園
所在地	大分市大字葛木字長溝872番地 (電話) 097-523-5500

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年1月8日	評価確定日	平成21年 3月30日

【情報提供票より】 (平成20年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	65 円
	または1日当たり 1,365 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	9 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三好医院 村上歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	静かな住宅地に立地しスーパーや商店などが近くにあり利便性も良い。
2	散歩や映画、美術鑑賞等積極的に外出する機会を設け、地域に溶け込むきっかけ作りにもなっている。
3	職員は仕事の取り組みに対する意識が高く、常に利用者が向上できるようにと考えながらケアを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点となった項目については職員で話し合いの上、改善シートを作成し、取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 毎月のミーティング時に全職員で話し合いながら自己評価を作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議参加者からの提案で、職員の名札を付けるなど運営にいかしているが、定期的な会議開催には至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2ヶ月毎に作成している写真満載の園便りに担当者からのメッセージを添えて報告している。また、現金出納帳の明細を請求書と共に送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会主催の盆供養祭のバザーに利用者手作りの小物を展示販売したり、地域の盆踊りに参加し金魚すくいをしたり、公園の清掃もしている。また、地元の幼稚園や中学校とも交流しており、小学校のふれあい祭りへも利用者が参加している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合って作成した理念のもとに、地域密着としての方針を取り入れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示し、毎日の申し送りや記録などを通して話し合いを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の盆供養祭のバザーに利用者手作りの小物を展示販売したり、地域の盆踊りで金魚すくいなどを行っている。また、公園の清掃もしている。地元の幼稚園や中学校とも交流しており、小学校のふれあい祭りへも利用者が参加している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のミーティング時に全職員で話し合いながら自己評価を行い、その中で改善点となった項目については改善シートを作成し、取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者からの提案で、職員の名札を付けるなど運営にいかしているが、定期的な会議開催にはいたっていない。	○	定期的な会議開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関しての相談や情報、アドバイスなど受けている。また、運営推進会議の案内送付により、今年から市役所職員が参加する予定である。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に作成している写真満載の園便りに担当者からのメッセージを添えて報告している。また、現金出納帳の明細を請求書と共に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加行事で年3回程度家族会を開催している。運営推進会議には複数の家族が参加している。訪問時やケアプラン説明時には、個人面談をしている。その他、意見箱の設置など、意見を出しやすい環境づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り職員の異動は最小限にしている。離職時には担当の家族へ連絡し、便りで報告している。また、2ユニット間の職員が相互の利用者と馴染みの関係ができるように、ミーティングは全職員で行い、勤務をユニット間で交代するなどの工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修への参加や毎月のグループホーム内研修の他に講師を招いての講演開催など、職員育成の計画のもとに積極的に取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブログなども掲載しているホームページを作成し、職員が交代で担当して更新している。県内全てのグループホームに開設案内を出し、情報交換をしている。また、グループホームの職員の相互研修を年度中に実施予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始時は職員が自宅を訪問し、本人にはグループホームへお茶飲みに来てもらうなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は毎日の食事作りでの調理や畑の野菜作りなど利用者に教えてもらいながら、一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアで気付いた事を記録する「気付きノート」や担当者が利用者の希望などを聞き取る時間を作るなどして把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは面会時や電話で事前に意見を聞いた上で、本人、日勤の全職員で計画書の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のケアカンファレンスと状態に合わせて随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や散髪、個別の買物など個人の希望に添って対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院から毎週往診を行い、医療面の連携を図っている。かかりつけ医は本人、家族の希望に合わせた対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまでの対応する方針を本人や家族には契約時に説明しており、職員も共有している。また、状態の変化時にはその都度家族からの相談や質問に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事例検討や職場内研修などで勉強しているが、まだ十分でない場面がある。	○	言葉づかいなど、利用者毎に配慮した対応ができるような工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望があり、外出される方へはいつも職員が同行して歩いたり、朝起きる時間が遅い方へは食事を遅く出すなど、各自のペースに添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全てホームで作っており、利用者の好みを聞きながら一緒に献立を立て、食事の準備や調理、後片付けまで出来るところを利用者と共に行っている。また、年に4回程度外食へ出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で2日に1回としているが、希望があれば、毎日や夜間でも対応が可能である。また、入浴の順番表を分かりやすい場所に掲示している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立書き、モップかけ、ゴミ集め、畑作業など、役割が持てる方には仕事を任せるなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ、毎日散歩に出かけており、映画、美術鑑賞など個別の希望があれば可能な限り対応している。また、3ヶ月に1回程度全体での外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く、何度も離園する入居者がおり、職員で話し合い現在は利用者、家族に説明した上で施錠することもある。いつでも外にでられるが、扉の開閉は職員がリモコンで行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、年1回の避難訓練を実施している。	○	非常災害時の備蓄の確保や、地域との連携を図っていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時に摂取カロリーや栄養を本で確認するなどしている。	○	全職員が食事や水分摂取の大切さを理解できる取り組みや、母体病院の栄養士にメニューを確認してもらうなどの工夫が望まれる。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは大きな窓から自然光が差し込むゆとりのある作りで、玄関には職員手作りの正月飾りがあり、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味の植物など、利用者各自の個性が感じられる居室となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人泰山会 グループホームみよしファミリー園
(ユニット名)	桜ユニット
所在地 (県・市町村名)	大分県大分市大字長瀬872番地
記入者名 (管理者)	池田 響子
記入日	平成 20年12月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	地域密着型サービスとして何が大切かを全職員の意見を聞き話し合いを重ね誰が見ても分かりやすく共有できる理念に見直し作り上げた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念は事業所内の目に触れやすい場所に掲示し、いつでも意識できるようにしている。日々、申し送り・気づきノート・経過記録などを活用しその都度話し合い取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	ご家族は元より来園されるすべての方の目に留まる場所に掲示している		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	開設当初は、近隣の方にこちらから挨拶し、声かけを行っていたが現在は、日常的に本人と職員が外に出かけると住民の方から声をかけてくれたり、自然に立ち話ができる関係が出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会主催の行事参加として入居者の方の手作り作品の展示販売や金魚すくい、地域の方との盆踊り、公園の清掃活動や地元幼稚園児との交流、中学生のふれあい研修等により地域の一員としての役割を果たしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者などとの交流方法について職員間で話し合いを何度も行い自治会や学校関係にも協力を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、改善シートを作成し、日常生活のケアの質や達成度点検し、実践に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や、利用者家族の参加による会議において外部評価の中で改善すべき項目への取り組みについて協力を呼びかけ改善に向けて具体的な内容の公開に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村(介護保険課)とは、不明な点や改善に必要な情報等、意見を聞いたり、アドバイスをうけている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	園内研修で職員には説明を実施。今後も専門の講師による講習を予定している。必要な家族には説明も行い、現在1名の方は後見人の選定中である。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を開いたり、事例研修に力を入れ、特に言葉による虐待が何気ない一言にもありえる事を認識するよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、利用者及び家族に不安が残らないように説明を行い、疑問が生じれば常に対応できるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・質問などの受付ノートの設置及び家族会や面会時に家族の方と話せるように努めている。利用者の方には常に自分の思いを話せる雰囲気を作るよう努力している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に写真等掲載した園便りの中で、行事での様子、健康状態を担当者からのメッセージを通じてお知らせしている。また、金銭管理に関しては現金出納帳の明細を請求書に添付して送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には、運営推進会議やケアプランの説明時、個人面談を行い苦情や意見を引き出し、やすいよう工夫している。又、施設内にご意見箱、相談室を設け、窓口担当者が責任をもって調査、改善できる体制をとっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在は常に意見や提案を聴ける体勢にしており、自由に意見が言える職場作りを心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現状で出来る事は最善を尽くしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えているが両ユニットの確執が生じないように相互の入居者の方となじみの関係が築けるように配慮している。離職時においてもダメージを防ぐように職員間で話し合いを十分に行いケアできるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が一律でなく各立場・経験・地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて段階的に外部研修が受けられるよう計画し業務の中で必要な知識・技術を取得できるよう努力している。月1度の園内研修のほか講師を呼んでの講演、園外研修他介護施設での訪問研修を計画している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページの立ち上げにより情報交換の場として機能させグループホーム他介護施設での相互研修にも積極的に取り組む方針である	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務希望を受け入れ連休を取れるようにして心身のリフレッシュが出来るように配慮している。いつでも相談にのれるよう日頃から職員とのコミュニケーションが取れるように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場に滞在できる時間が限られている為、職員の個々の努力や勤務状況など管理者がしっかり把握し、各自が向上心をもって働けるよう働きかけている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思い、本人の思いどちらも大切にしながら、本人の納得いく様に話し合える機会を充分に持てるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを傾聴し協力できる事を良く話し合い本人との橋渡しになる事もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	選択肢があることを伝え支援についても分りやすく説明し最良の方法を一緒に考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の開始は必ず家族や本人と相談・合意の上で、始めているが、中には本人の合意がもらえない場合がある。その時は何度かお茶を飲みに来てもらいなじみの関係を築いていくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の作り方を教えてもらいながら一緒に作業したり、昔の話を聴かせてもらいながら職員も色々なことを学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に面会時や来訪時には声掛けを行いなんでも話せる雰囲気をつくり、ゆっくり会話できるような状況にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係を充分理解した上で、本人の気持ちや家族の思いを誤解の無いように伝えるよう努め、良い関係が保てるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や親戚の方が気軽に遊びに来てもらえるようもてなしをしており退去された入居者の新居にも本人の了承をもらい仲の良い方と遊びに行かせてもらうなど交流している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間のトラブルは未然に防げるよう職員間で話し合いを重ね解決できるように努力しているが関係修復が難しい場合もある。	○	トラブルの予測も出来、原因も掌握しているが本人の性格が関わると理解してもらうのが難しく気分転換やその場しのぎでは修復できないこともある為色々な方向からの検討が出来るよう職員の意欲を向上させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も関係が続くように配慮しており転居先に遊びに行かせてもらうなど努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や・意向は把握するように努めており実行できているが時には医療的観点から本人本位に出来ない場合も現実としてある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方からの情報収集に努めているが面会のほとんどない家族もあり本人の会話の中から組みとりながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務の申し送り、経過記録や日々の職員の観察などにより現状を総合的に把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を、作成する場合本人参加は可能だが家族の参加に関しては限られており難しい。面会時に意見を聞かせてもらい反映させているのが現状である。	○	リスクの生じるプランなどもある為家族の参加が必要な場合もあり今後は家族の意向もどんどん取り入れていく為にも総合的な話が出来るよう働きかけていこうと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状重視で臨機応変に対応できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートや申し送りノートにより職員全員が情報を共有できるように工夫し経過記録による情報で見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間対応を活かして本人の状況を見る事ができるので、生活の要望を調整することにより良い方向に支援できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れは積極的に起こっており教育機関の情報なども活用している。	○	今後、自由な外出を推進していく為にも民生委員や警察、消防などの協力を要請できるように動いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護サービスは受けられないが、ボランティアや職員が研修等を受け代替サービスが出来るようにしている。他サービスにおいても情報を常に意識し支援できるよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状は共同できていないが、今後相談や講習会の開催など協力をお願いしていく方針である。	○	来年2月ごろから権利擁護や虐待に対する講習会を依頼する予定。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面では、母体の病院が全面的にバックアップしてくれているので安心して業務に就ける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度や看取りについて早期に協議を重ねていく予定です。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	充分配慮に努めているが行き届かない面も否めない。職員の指導もその都度指導するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望に添えるよう職員が配慮し、時間の許せる限り努力している。但し、献立に関しては意見を取り入れてはいるが、常時好みのものを提供することが難しい。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の意識の向上により一人ひとりのペースを守りながら支援できるようになりつつある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在理容・美容は希望者は地域の店に出かけている。家族と行きたい方は家族と行きつけの店を利用されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを優先させているが好みもバラバラで偏りができてしまい栄養のバランスも考え工夫しながら組み立てている。食事の準備は入居者の方と共に作り男性は下膳に協力している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的に禁止されている方が多く、代替品で補えるよう配慮している。医師の指示に従う面も多々ある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄については特に力を入れており、一人ひとりの状況を常に把握することで気持ちよく排泄できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入居者の皆さんの希望により2日毎に入浴するようしており順番表も見えるところに掲示している。毎日希望する方は毎日、夜間入浴希望の方にも対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は設けていないが、自然とペースが出来ており自室で遅くまでテレビを見ている方もいる。起床時間はそれぞれのペースではあるが朝食時にはほとんどの方が起きている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の一人ひとりの生活が見えてきたこともあり役割を好む方にはその方に仕事をおまかせしたり、何もしたくない方には自分の時間を大切にしてもらいいつでも気晴らしできるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行する場合、本人にお金を支払っていただき、買い物にいけない方で常にお菓子を希望される方には詰所で売店のようにお菓子を購入して頂いたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日や特に寒い日を除いてほぼ毎日散歩にでかけており本人が希望する外出も出来る限り対応できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクの頻度を多くすることにより個人の希望に添えるよう対応したり家族の方に連絡を取り外出してもらい、年3回は全員で外出できるよう体勢を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望するときはすぐに連絡をとるようにし、面会や電話の全くない家族には極力連絡を取りやすいように工夫したりして支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもちろん、昔なじみの方たちにも遊びに来ていただける雰囲気をつくり暖かい場所を作るように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状は必要性のある方は皆無であるが、職員には研修時虐待との関連性も含め徐々に理解するように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自宅に居る時と同じように自由に出入りしてもらいたいのは、職員一同の希望であり徐々にそうありたいと思案中ですが実状は何度も離園される方があり危険認知が出来ない入居者の処遇に職員のストレスも蓄積されている。	○	理想と現実を入居者・職員がどう受け入れていきながら対応していくか。他施設研修などで取組んでいく。机上の空論になり易いテーマである。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の所在確認を念頭に置き、状態の変化の気づきに対して職員の研修も行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の気持ち、危険順位、日常の行動など考察しながら配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急時のマニュアルを作成し何度も繰り返し研修を重ねている。	○	地域や警察署との連絡網がまだ不完全であり、早急に取り組む必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応のマニュアルを作成し、瞬時に最善の対応が出来るよう指導し、担当の職員を設けいつでも職員に指導できるようにしている。定期的の実技講習も開いている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルはあり、誘導方法などの実技訓練を行い対応出来る様にしているが、地域の方とは具体的な避難方法の話し合いは出来ていない。	○	地域の方達とも避難の協力などをお願いしていけるよう機会を作る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との話し合いはかなりの頻度で行われているが、家族の思いと本人の思いの温度差を感じる。家族と本人の気持ちの橋渡しを継続していく。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づきのセンスを身につけることにより、職員の対応で解決できる事項が増えてきた。情報の共有も毎朝の両ユニット合同の申し送りにより実現できつつある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や用法などは管理表の作成により職員全員が分かるようにしており、薬のセットを交代制で全職員が行うため更に理解を深めるようにしており、新しく処方される薬に対しても状態変化などに留意するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操、嚥下体操や毎日の散歩、散歩に行けない方にはエアロバイクによる運動などを行い、献立も繊維質の多い食材の工夫や水分補給・排便管理・必要に応じて腹部マッサージの実施も行うなどしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや介助の必要な方には、職員が付き特に嫌がる方には、うがい薬にてうがいをしてもらい義歯については就寝前に薬剤洗浄し衛生に気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時に1日の摂取カロリーに気を配りバランスも配慮している。水分も定時に必要量取れるよう工夫している。食事摂取量は記録に残すようにしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	専門の職員を配置し講習などにより職員へ実技を兼ねた講習を繰り返し行うことで対応できるようにしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一仕事、一手洗いの徹底、食器の完全乾燥、まな板の消毒、食品の鮮度チェック等の実施。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門戸を開放し、テラスでお茶を飲んだり布団を干したり花のプランタンで明るい雰囲気を出せるよう工夫している。実際に通りがかりの方が立ち寄り見学して下さることが多々ある。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには普通の家と同じように不必要な装飾はせず、居室は入居者の方が自宅と感じて住めるように家族に協力してもらい居心地良く過ごせるよう工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日は、テラスでお茶を気の合う方達で飲んで頂いたり、床にマットを広げ座りながら話をしたり編み物を皆で編んだりできるようにしてグループを楽しんでもらい一人の時間も取れるよう空間も作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前に家族と話し合い、本人の希望に添えるよう家財の持込などをお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン・換気扇利用で対応している。温度計・湿度計も利用し空気の状態を管理している。温度変化の認知のない方の居室は時々訪室してエアコンの温度確認を行うなどしている。毎朝空気の入替えの為窓を開放している。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動が出来るようテーブルの配置やソファの位置などを考え障害になるような物を置かないようにしている。外のテラスをりようしてもらったり、歩行の安定しない方にも手すりの利用で移動できるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分でできる事は、力に応じて対応できるように職員の情報を共有し、時間の必要な方には十分な時間をかけられるようにしてまずは職員がゆとりを持って対応できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスの花壇の手入れを入居者の方と共に行い、裏庭で野菜栽培を行い季節に応じて旬のものを共に収穫し、食すようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の特技を活かし、クラブ活動として何らかの形で入居者の方が全員参加していただけるように工夫している。(料理クラブ、将棋クラブ他多数)